

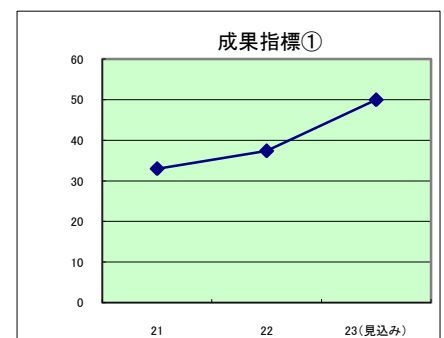
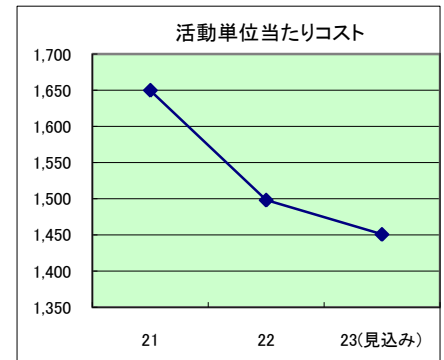
平成 23 年度 事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号

教生社13

事務事業名		白鳥児童館管理運営事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち	款	10	教育費	
	施策(節)	1	子育て支援	項	5	社会教育費	
	施策の方向	(3)	子どもの居場所づくり	目	3	少年健全育成事業費	
	関連する計画等	羽曳野市次世代育成支援行動計画		事業	3	白鳥児童館運営費	
作成部署				教育委員会事務局生涯学習室社会教育課(白鳥児童館)			
連絡先				072 - 958 - 1111 内線 4450			
事業の目的	対象(誰を・何を)						
	保護者同伴の3歳以上の幼児及び小学生						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	健全な遊びを通して、健康を増進し、情操を豊かにする。						
	大きく5つの領域別で年間事業を実施している。①いろいろな工作・体験(チャレンジルーム、トライルーム、体験教室、自由教室) ②スポーツ・レクリエーション・伝承あそび ③絵本のへや ④わくわく子育てひろば(みんなで遊ぼう、子育て教室、手作りひろば) ⑤大きなイベント(児童館まつり、絵本のへやフェスティバル、クリスマス会、ふれあいお茶会他)						
	根拠法令等						
事業開始時期		☐ 昭和 4 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度		平成 年度	
事業開始時からの状況変化		平成19年度からは、事業の効率化から、日曜、祝日を休館日とした。					
市民や議会の要望							
実施手法		☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☒ 市外郭団体委託 名称(シルバー人材センター) ☒ 民間委託 ☐ その他		委託内容		清掃、機械警備	

区 分		21年度	22年度	23年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		4,429	4,651	4,139
人件費【2】 (千円)		11,550	11,820	11,820
職員数	正規職員	0.10 人	0.10 人	0.10 人
	再任用職員	2.00 人	1.00 人	1.00 人
	嘱託職員	2.00 人	3.00 人	3.00 人
	臨時職員	1.00 人	1.00 人	1.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		15,979	16,471	15,959
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)	34	32	18
	一般財源 (千円)	15,945	16,439	15,941
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		21年度	22年度	23年度(見込み)
① 利用者数(延人数) 人		9,685	10,994	11,000
② 児童館まつりの参加者 人		168	258	300
③				
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		1,650 円	1,498 円	1,451 円
市民1人当たりコスト(【A】／人口)		134 円	140 円	135 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方		平成21年度	平成22年度		平成23年度
	①	開館日1日あたりの利用者数 (式) 延利用者数÷開館日数	人	1日の利用者数	目標	50	50	達成率(%)	50
					実績	33	37	74.8%	
	②	(式)			目標			達成率(%)	
					実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	地域に密着した児童館として、今後とも行政の関与が必要と考える。

視点	分析のためのチェック点				はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い				☒	☐	☐	東地区の児童館としての存在意義は大きい。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない				☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している				☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない				☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない				☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい				☒	☐	☐	
	緊急性が認められる				☐	☐	☒	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)				☒	☐	☐	人員配置について、平成19年度から正職員の配置がなく、再任用職員、嘱託職員及び臨時職員で運営している。
	受益者負担の割合は適当である				☒	☐	☐	
	人員を削減する余地がない				☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない				☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない				☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない				☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない				☐	☐	☒	
有効性	上位の施策(目的)が明確である				☒	☐	☐	羽曳野市次世代育成支援行動計画(はびきの夢プラン)において、「子どもの居場所づくりへの支援」として位置づけられている。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である				☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない				☒	☐	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている				☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している				☒	☐	☐	運営委員に、地元の主任児童委員、区長、青少年指導員等を委嘱している。また、各種教室の講師として、地域の方々にボランティアとして、参画していただいている。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている				☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している				☒	☐	☐	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている				☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である				☒	☐	☐	設定目標の達成には至っていないが、平成21年度より大幅な改善が図られている。
	成果指標の実績値は目標値以上である				☐	☒	☐	
	成果指標は前年度より向上している				☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価									
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了									
	評価の理由									
	限られた予算、人員で様々な取組み(各種教室等)を行っており、地域にとってなくてはならない施設となっている。									
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)									

行革本部評価	総合評価					評価理由・意見				
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了									